

γCD包接で新提案

シクロケム

尿酸値や腎機能対策に

プロポリスやクルクミン等活用

シクロケム（神戸市中央区）は、外出自粛が和らぐとともに歓送迎会などで飲酒機会が増える今後に向けて、γシクロデキストリン（γCD）で包接したニュージラント産プロポリスやクルクミンを、尿酸値対策や腎臓機能維持の素材として提案強化している。

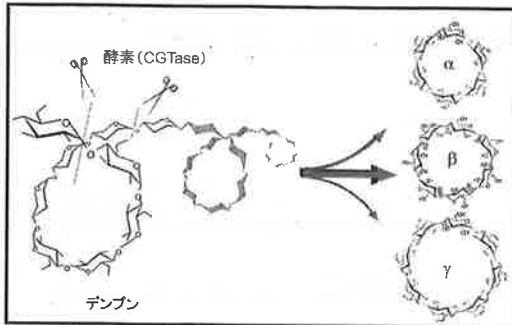
アルコールは、体内のエネルギー源「ATP」の分解を促進し、その結果プリン体が増え、その後尿酸として体内に蓄積される。また、アルコールの飲用で腎機能が低下すると、尿酸が体内から排泄されづらくなる。

このように、アルコールは腎機能や尿酸値に影響を与える。これに対し、2020年に中国の



寺尾啓二社長

学術誌で発表された研究では、クルクミンは血清尿酸や尿素素を低下させるほか、プリン体を尿酸に変換する酵素「キサンチンオキシダーゼ（XOD）」の活性を抑制することが確認されている。



酵素により切断されたデンプンが、オリゴ糖となり環状に結合したものがシクロデキストリン。オリゴ糖6個の結合がα、7個の結合がβ、8個の結合がγになる

一方、ニュージラント産プロポリスは、含有成分のコーヒー酸フェネチル（CAPE）に、XOD活性阻害効果が見出されている。その効果

は、ブラジル産プロポリスの有効成分とされるアルテピリンCやp-クマール酸と比べて顕著に高く、痛風治療薬のアロプリノールとほぼ同等だと強く訴える。

また、クルクミンは体内で素早く代謝されるが、ピペリンを添加すると代謝速度が抑えられる。これにより、体内に長く留まることで生体利用能が高まるが、ピペリンも吸収率が低い。そこで「ピペリンはγCDではなくαCD包接で、吸収性が高まる」という興味深い知見を得た」（寺尾啓二社長）。

低いという難点がある。シクロケムではこの課題に対し、γCDで包接することで吸収率が向上することを確認しており、生体利用能が高まると提唱する。